

食品ごみを削減し資源循環型社会の構築へ貢献 「温風乾燥式 業務用生ごみ処理機」

澤 綾子 (さわ あやこ) 松下電器産業(株) 松下ホームアプライアンス社 クリーナービジネスユニット 商品企画チーム 主事

1. はじめに

2001年5月に施行された「食品リサイクル法」は、循環型社会を形成し、環境保護を推し進めようとする基本方針の中で、食品の面からリサイクルを推進しようとする狙いから定められた。

この法律が当面の目標としているところは、「食品廃棄物の排出量削減」にある。その排出量削減の目標は「2006年までに排出される生ごみを20%（重量比）削減する」というものだ。

なお、削減の方法としては、①発生抑制：食品廃棄物の発生を未然に抑制、②再生利用：食品廃棄物を肥料や飼料その他の製品の原材料として利用、③減量化：脱水、乾燥その他の方法により食品廃棄物の量を減少の3つが示されている。

いよいよ2006年度に突入、生ごみ処理装置の業界は活況を呈し、消費型社会から循環型社会への転機が訪れ、今後一層の需要拡大が見込まれている。

2. 温風乾燥式生ごみ処理機の構造

温風乾燥式生ごみ処理機はタンク内の生ごみを、攪拌はねにより攪拌粉碎しながら温風で加熱し、効率よく粉碎乾燥処理する。乾燥処理中に発生する臭いを含んだ蒸気は、触媒を通して脱臭しながら機外に放出され、処理された乾燥処理物は、排出口より自動的に排出される。NS-N120G（図1）は乾燥ヒーターとファンで上部から温風で加熱し、MS-N32GSF・MS-N32GF（図2）は温風加熱に加え、タンク底からも直接加熱する。

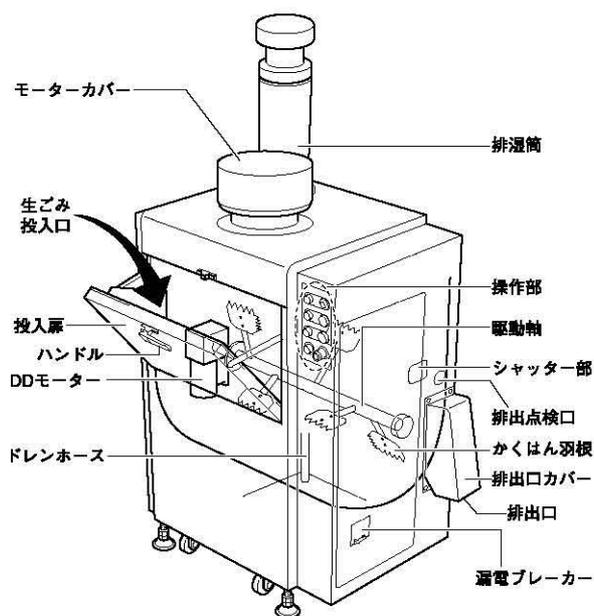


図1 MS-N120G

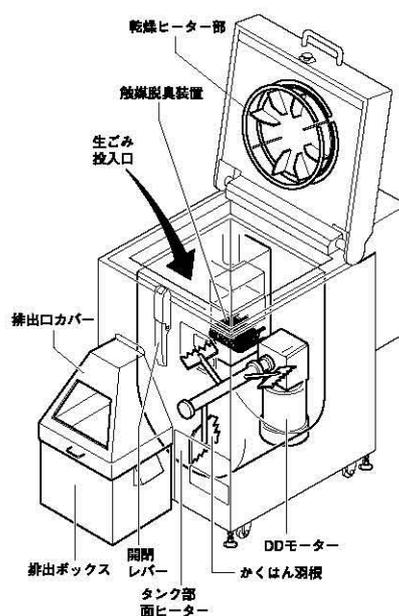


図2 MS-N32GSF、N32GF